

5 森林はどのような植物の集まりからできているのだろうか

大きな森林は、山地帯に限られていますが、小さな規模の森や林は、身近なところにまだ残されています。野外観察ですぐ目につく平地の森林などです。

このような森林には、マツ林やスギ林、雑木林などがあり、神社やお寺の境内にうっそうとしげっているものもあります。

また、自然にできあがったもの（自然林）もあれば、人工的に植林したもの、ばっさいなど人為的影響で成立した森林（二次林）もあります。

自然林はその環境下で最も発達した林という意味で、この状態の森林は特に極相林とよばれています。

そこにみられる森林が、極相林であるかどうかの判断はむずかしいが、簡単な目安としては、次のような点があげられます。

○森林の階層構造が一般によく発達していること。新しい森林は構造が簡単であるが、発達するにつれて各階層の構成が複雑になっています。

○上層が陰樹でおおわれ、その下層から同じ陰樹の幼樹がのびてきていること
まず、林の外側からだいたいのようなすをみて、何の植物によって代表されるかを知るとともに、およその樹高も知っておく。

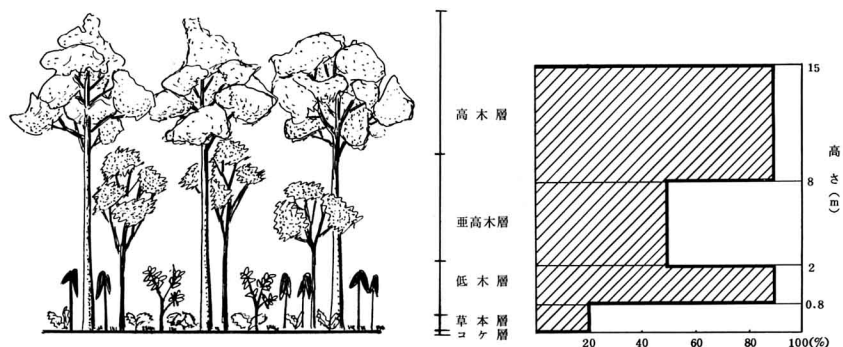


図-12 A 森林の階層

B 階層別の植被率(ブナ林の場合)

※植被率：一定の調査面積に対する全植物のおおっている面積の割合